

デジタル教科書について

現場の先生方の実践をベースにした生活科教科書『あおぞら』『そよかぜ』に、主に次のような機能をつけた児童用デジタル教科書を制作しています。タブレット型端末や電子黒板等を用いた授業をサポートします。

- ・教科書紙面を自由に拡大縮小表示できる機能
- ・教科書紙面に自由に繰り返し書き込める機能
- ・教科書紙面に書き込んだ内容を保存・表示できる機能



※制作中のため、内容や構成は予告なく変更する場合があります。

内容解説資料

せいかつ

上 あおぞら

下 そよかぜ



子どもとともに
子どもと身近な自然や社会、人々をつなぐ、
ぬくもりのある教科書に
「くらし」を大切に

『あおぞら』『そよかぜ』にこめた願い

「あおぞら」も「そよかぜ」も心地よいものの象徴です。

「あおぞら」は、自分の目でとらえることのできる対象です。広がる青空、そびえる大樹、野に咲く草花、カエル、トカゲ、ヤギなどの様々な生き物たち、そして、新しい友だちとの出会い…。

「そよかぜ」は、目では見えないけれど、自分のからだでとらえ、感じることのできる対象です。吹き抜けていく爽やかな風とともに2年目の春を迎えて、ひとつ大きくなったわたしたち、そして、深まっていく友だちとのつながり…。



上 あおぞら

上巻『あおぞら』の表紙に描かれているのは、青空に向かってそびえ立つ大樹に作られたツリーハウスの国で遊ぶ子どもたちです。みんなでわいわい言いながら登った最上階のハウスから見渡す景色は格別です。

そして、仲よしの生き物たちと作ったゴンドラに乗って勢いよく滑り出した子どもたちの行く手には、これからつくる楽しい生活科の学びの世界が広がっています。心とからだをたくさんはたらかせて、「やりたいことおもいきり」取り組んでほしいと願っています。



下 そよかぜ

下巻『そよかぜ』の表紙に描かれているのは、大きく育てたトウモロコシの葉っぱの滑走路から爽やかな風に乗って飛び立っていく子どもたちです。みんなと力を合わせてトウモロコシを収穫したり、飛行機の材料であるセミの抜け殻や鳥の羽根を担ぎ上げたりしています。

「それっ！」と飛び立った子どもたちの眼下には、あたたかく見守り育てくれるふるさとの町並が広がっています。様々な人・もの・こととかわりながら、より一層視野を広げ、「みんなとすすんで」取り組んでほしいと願っています。

生活 上『あおぞら』, 下『そよかぜ』の特徴

①学校の実践をもとにした編集

生活科創設当初から、長年にわたる県下の学校の実践を通して編集しています。

②子どもの生活に寄り沿った時系列による構成

子どもの生活や活動・視野の広がりや深まりに合わせて、単元を時系列に配列しています。

③生活科の本質を見つめた編集

子どもの願いや求めから始まる活動の中で育まれる豊かな学びや育ちの姿を表しています。

④地域に根ざした単元の構成

地域性を考慮した教材と直接体験を重視した単元で構成しています。

編集にあたって大切にしたこと

～「人間愛」の育成を基本理念においた編集

子どもと身近な自然や社会、人々をつなぐ、ぬくもりのある教科書に～

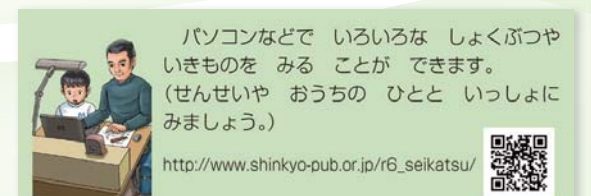
- ①地域に生まれ、地域に育つ子どもが、四季を通してその場所にかかわることを重視した内容構成
- ②活動の端緒や追究過程を大事に考えた単元の展開
- ③動物や植物との継続的なかわりを通して、命のドラマを体験できるような場面の表し方の工夫
- ④自分の生活・成長が自覚できるような振り返りの場面の設定
- ⑤スタートカリキュラム、各教科、総合的な学習の時間との関連や情報機器の利用

紙面構成にあたって配慮したこと

- ①紙面を構成するさし絵、写真、そして、子どもの作品については、子どもが活動に打ちこんだり、学びを深めたり、自他とのかかわりを通して成就感を得たりする姿を表し、活動への触発や意欲化につながるよう配慮しました。
- ②子どもの言葉についても豊かな学びにつながる「吹き出し」「対話」「詩」「作文」等で表し、気付きや体験の質が高まるようにしました。

情報機器の利用について

教科書の内容と関連する動物や植物、活動例等の図鑑的資料をより充実させて、それを閲覧できるURL・二次元コードを巻頭に設けました。



改訂のポイント①

地域に生まれ、地域に育つ子どもが、四季を通してその場所にかかわることを重視した内容構成

いつもの遊び場やさんぽみちなどを位置付けた単元を設け、そこへ四季を通して繰り返し足を運び、直接体験を通して多様な気づきや発見のよろこびを感じ、ふるさとへの愛着を深められるような内容で構成しました。



上 ふゆも きらきら
102, 107ページ



上 はると なかよし
27～30ページ

「たんごのせっく」「たなばた」「おつきみ」「お正月」「せつぶん」「ひなまつり」など、季節の変化とかかわりのある地域の行事にこめられた人々の願いや思いを調べる活動を大事にし、人々とかかわりながらくらしをつくっていけるように構成しました。



上 たなばた
52～53ページ

上 せつぶん
114～115ページ

地域に根差した人・もの・ことのかかわりや触れ合い、交流を通して、様々な学びを深めていく単元展開になるように配慮しています。



下 わたしたちの町
16～17ページ

下 みんなで 行こう
66～67ページ

改訂のポイント②

活動の端緒や追究過程を大事に考えた単元の展開

活動が真に子どものものとして展開するために、単に活動を指示したり、例示したりするのではなく、「子どもの願いから立ち上がる端緒」や意識の高まり具合を、吹き出しや表情豊かな写真やさし絵などで示し、学びの深まりや広がりにつながる活動への触発性を大切にしました。



上 ひとつぶの たねから
68～69ページ

ひとつぶの
たねから

各単元の扉ページいっぱいには、単元を象徴する写真やさし絵を掲載して、活動への触発と期待感を高めています。

下 はしれ はしれ
82, 87ページ

はしれ
はしれ

時に日常のできごとから、時にこれまでの遊び体験の想起から、活動への願いが生まれていきます。



上 わたしと かぞく
98ページ



下 すすめ すいすい号
52ページ

活動の節々における「感動体験」、試す・確かめるなどの「探究活動」、自らの体験を見返し味わう「表現活動」(詩的表現, 学習カード, 歌, 絵, 粘土など)を多様に示し、より深い学びや活動につながるよう、友だち同士の学び合いや情報交換の場も位置付けました。また、そうした学習活動を支える教師のありようを写真やさし絵の中に示しました。



上 わたしの あさがお
36～37ページ

わたしの
あさがお

下 いっぱい みのったね
62～63ページ

活動を支える教師のありようがわかるように示しています。

下 かがやく 夏
48～49ページ



改訂のポイント③

動物や植物との継続的なかわりを通して、命のドラマを体験できるような場面の表し方の工夫

動物や植物との継続的なかわりを大切に、息の長い活動を位置付け、家庭・地域との連携も大事にしながら課題を乗り越えていく姿を表しました。

動物の命、植物の命との触れ合いによって、かけがえのない体験が生まれます。



上 いきものと いっしょ①
48～49ページ

植物や畑の様子に合わせて、必要な世話を考えたり、調べたりします。

下 いっぱい みのって
42～43ページ



動物飼育にかかわっては、多数の学校での実践に基づいて、ヤギを中核にウサギやカナヘビなどの飼育活動の様子を示しました。また、飼育活動の発展や体験をもとにした表現の具体を表すとともに、下巻においては、飼育・栽培活動のまとめとして、その生き物や作物にかかわる様々な学習の収束や「別れ」も大切に考えた内容構成にしています。

子どもにとって価値のある体験が、多様で必要感に支えられた表現につながります。

下 いきものと いっしょ③
28～29ページ



飼育・栽培にかかわる様々な学習の収束や「別れ」も大切に考えています。

下 いきものと いっしょ④
88～89ページ



下 いっぱい みのったね
64～65ページ



改訂のポイント④

自分の生活・成長が自覚できるような振り返りの場面の設定

各単元で、子どもが自分や友だちの生活・成長・地域とのかかわり方などを振り返る場面を大事に設定しました。例えば、上巻では、日頃、家族に支えられている自分が家庭でできることを見いだしていく姿を、また、下巻では、自分の幼い頃の成長を支えてくれた家族や周りの人々とかかわり、学校での2年間を通し、その間の人々の温かなまなざしを感じながら成長してきた自分を実感できるようにしました。

「わあ、これつけてたの。」

「小さいころのわたし」

「夜中に四十どもねつを出して、びょういんへ行ったことがあったわ。とってもしんばいしたのよ。」

「よくてん車を 見に行ったね。」

「小さい おたんじょう日に、おもちを せおって歩いたんだよ。」

「みんな、すすんでやれたよ」

「おもいで いっぱい 生活科」

「みんな、さくを つくり出してほっとしたよ。」

「ヤギがこやからとび出したときは、びっくりしたな。みんな、さくをつくり出してほっとしたよ。」

「近道を教えてくれたよ。聞いてみてよかったな。」

「みんな、考えがでていろいろ考えたね。わくわくするんだよ。」

「知らない公園をみつけたときは、うれしかったな。みんな、たんけん楽しいな。」

このときだからこそその振り返りを大切にしています。

上 わたしと かぞく 100~101ページ

下 おもいで いっぱい 生活科 100~101ページ

「小さいころのわたし」

「夜中に四十どもねつを出して、びょういんへ行ったことがあったわ。とってもしんばいしたのよ。」

「よくてん車を 見に行ったね。」

「小さい おたんじょう日に、おもちを せおって歩いたんだよ。」

下 大きく なった わたし 94ページ

改訂のポイント⑤

スタートカリキュラム，各教科，総合的な学習の時間 との関連や情報機器の利用

入学期の子どもの発達の特徴を考慮し，遊びをはじめ，具体的な活動や体験を中核にしなが，総合的に展開できるようにしています。また，他教科や3年生以降の教科との関連，情報機器(デジタルカメラやタブレット型端末等)の利用，総合的な学習の時間との関連などにも配慮した紙面構成にしています。

上 うれしいな いちねんせい 7~10ページ

下 わたしたちが すむ 町 19ページ

上 もう すぐ 二ねんせい 123ページ

健康で安全な生活を送るための注意喚起を季節や適時性を踏まえて随所に示しています。

新しい環境に少しずつ馴染みながら，仲間とともに遊んだり，学んだりする楽しい学校生活への誘いを示しています。

デジタルカメラや電子黒板，タブレット型端末等の活用について，写真やさし絵で示しています。

指導書の紹介

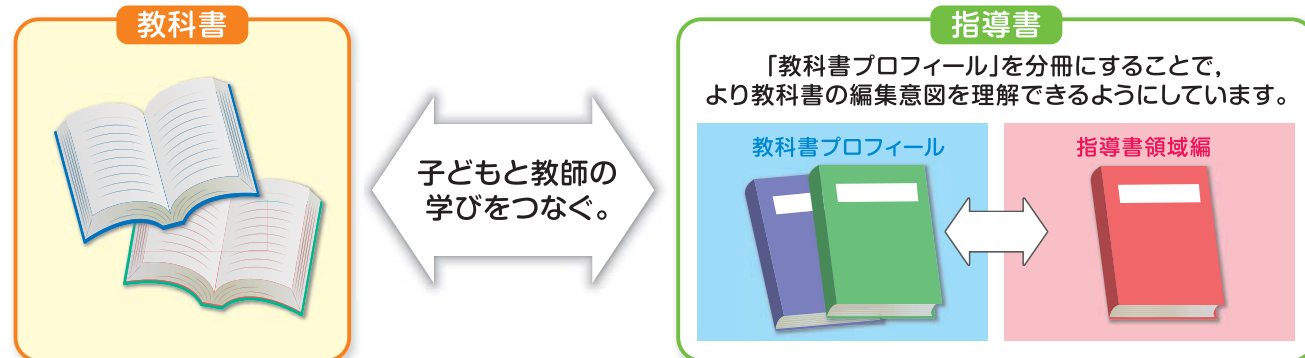
令和6年度版 指導書編集の基本方針

- ★全編を貫く指導理念を「人間愛」の育成において編集し、人やもの、生き物への思いを深め、かけがえない関係を学ぶ子どもの姿を記す。
- ★地域の自然や社会における暮らしの中で、直接体験を重視し、自然や社会のすばらしさ、人々の営みから生活の知恵を学ぶ子どもの姿を記す。
- ★子どもの願いや求めから始まる活動の中で生まれる学びや育ちの姿を記す。

(1) 充実した指導書に

- ①問題提起的で示唆に富んだ単元や学習活動例を、県下の実践をもとに編集しています。
- ②教科書が時系列であるのに対し、指導書は領域的なまとまりを大切にしています。
- ③教師自らが、内容や方法を発見的につくっていけるように問題提起し、触発されるような内容にしています。
- ④教師の学習観や教材観を見つめ直し、子どもの学びとは何かを問いながら、子どもの姿をとらえ、支援し、評価する、そんな教師の内面を盛りこむようにしています。参考資料として、「単元ごとの評価規準」を新たに付け加えます。
- ⑤実践する先生方の主体的な教材研究を大切にするとともに、その学校、その学級の子どもの実態にあった素材の教材化ができるように編集しています。
- ⑥上下分冊で、活用しやすい「教科書プロフィール」は、教科書と指導書各領域をつなぐ内容に編集しています。

【信教版の教科書と指導書のイメージ】



(2) 「教科書プロフィール」について

「教科書プロフィール」は、先生がいつも手元に置いて、明日の授業構想やこれからの活動への見通しを思い描けるように各ページにこめられた願いを端的に記すとともに、先生方に、より実践に役立つ情報を提供することで、教科書の編集意図を踏まえ、指導書各領域につなげて理解を深められるようにしています。

●こめた願い
各ページに掲載されているさし絵や写真、言葉やそれらの表しにどんな願いをこめているのかを端的に記しています。

●吹き出し
教科書の表しに沿って、先生方への問いかけ、誘い、期待等を吹き出しの言葉で記し、より理解が深まるようにしています。

●大切にしたいこと
見開きページに表した子どもの学びや育ちの姿にとって、どんなことが大切かを子どもの目線で記しています。

●つながる・調べる・深まる
教科書プロフィールの内容をより具体的に記しているのが領域編に掲載した単元ごとの各論です。どのようなタイトルで記載されているかを紹介し、プロフィールと領域編をつなぐようにしています。

●見どころ いろいろ
各単元の最終ページには、評価の見どころについて、指導書各領域の評価を記載したページと単元における評価の見通しがもてるように記しています。

●支援と評価
「大切にしたいこと」に記した事柄が、より子どもにとって意欲づけになったり、子どものものになったりするのための、支援と評価について端的に記しています。

※編集中のため、内容や構成は予告なく変更する場合があります。